七ヵ年私はよろこびと躍動で写しつづけました。昭和十一年五月上京の時持参して表紙に「子ども達の中にいて」と書いて頂きました。丁度皇后陛下に御進講直後のモーニングの礼装の先生は「よく書いたね」とおっしゃってほほ笑まれました。終りは昭和十四年八月三度目の御来崎の折上野屋の二階で先生より私の写本の裏に「長崎に来て親しくお会いして」と書いて頂きました。人間教育、裁く勿れ、温、驚く心まめやかさ、先生方よ睡眠を充分とって置いて下さい、涼、動、自分、秋晴、ひなた、感情清算等……私には何にもかえられない力強い魂の記念品でありました。この写書は私が保育研究の時いつもくくりとして必要なものであり、ほんとうの保育の友にだけ借して上げるものであります。四月二十一日の夜、私はお通夜の心でお経代りにこの写本を声高らかに読みふけり御冥福を祈りその教育観とお人柄を敬慕致しました。

昭和二十七年一月、原爆後の仮園舎に先生お作の長崎幼稚園の歌が届けられましたが二十八年三月新園舎落成の時には大勢のお客様の前で子ども達が晴れやかに合唱しました。今も毎週月曜の朝の集りで子ども達に唱われる園歌、先生のお徳は消えることなくいつまでもいつまでも子ども達に親しまれ希望の光となって長崎市内に、日本の海山に否世界の果までも高く低く響くことと信じます。

倉橋惣三先生安らかにお眠り下さいませ。

奥津城につづく道辺の落椿

（長崎市立長崎幼稚園長）

倉橋先生を偲びまつる

山崎ときの

たおれし〇〇さんだきおこし
耳に口あてことたえば
にっこり笑って目になみだ
自発活動も口のうちトコトット——

これは私が大正五年四月初めて神戸幼稚園の保姆に就職した時分に今はなき望月先生から折にふれてきかして頂いたラッパ節の替歌であります。この自発活動という言葉がかく歌となり又保育の合詞となって保姆の心をゆり動かし保育の重要な指針となったかと申しますと、大正の初年頃神戸市で開

かれた京阪神三市連合保育会の総会に於ける倉橋先生の保育に関する処女講演「保育の新らしい目標」の内容より受けた驚異と感激に起因するのであります。この当時の幼稚園に於ては大体に於てフレーベルの思想に基いた保姆中心主義の保育が行われて居たのでありますが、倉橋先生はこの講演に於て、保育は幼児の生活を基礎として幼児の自発活動を重んじ具体的に相互的に遊びの中に自然的に進めるべきであるとの新保育論を公表されたのであります。永い伝統の中に安んじて居た京阪神の多くの保姆達は恐らく驚異の目を見張り、この型破りの新らしい新保育論に思わず引入れられたことであつたと思う。さてこそこのラッパ節が生れ、合詞となって新らしい保育が芽生たのであります。口絵、大正初年頃の写真は実に其御講演直後会場であった県一高女で神戸の保姆達に囲まれた若き日の倉橋先生であります。

歳月は流れて五十年、其間先生が我国全体の幼稚園、保育所否全幼児の為にお尽し下さいました数々の大きな御功績は燦々と照る太陽の如く今更私などの拙ない言葉で申し上げる何物もございません。

唯最後に、思う事をなしとげるまでには永い年月を要するものであります。先生が一生をかけて全国にお蒔き下さいました保育の理想の種は五十年の歳月を経て今や漸く全国到る処に其実を結びつつあるのではないかと思うのであります。今日の私共の保育はたとい先生の保育真諦には程遠いものがあるとしても其精神にははなれないだけの保育が生れ出て先生に喜んで頂ける域に進みつつあることを信じ先生への無限の感謝を捧げて倉橋先生を偲びまつる言葉と致します。

（睦学園女子短大助教授）

倉橋先生の思い出

山下俊郎

わたくしが倉橋惣三先生というお名前を知ったのは、東大心理学科の学生時代で、はるかなる大先輩としてお名前だけを知っていただけである。直接お眼にかかったのは、大学卒業後間もない頃、大日本聯合婦人会の家庭教育相談所にお手伝いしていた時に、婦人会に見えた先生に文部省の誰方からか紹介していただいた時である。しかし、直接にお眼にかかってお話を伺うという機会は一向になく、わたくしはいつも